

卒後 50 年記念寄付授与式レポート

3 月 15 日 (@上田高校 @同窓会本部)

布施修一郎 (6 組)

卒後 50 周年記念の一環として、母校への募金を同期の皆さんにお願いしてきましたが、本年 1 月末日をもって締め切りました。

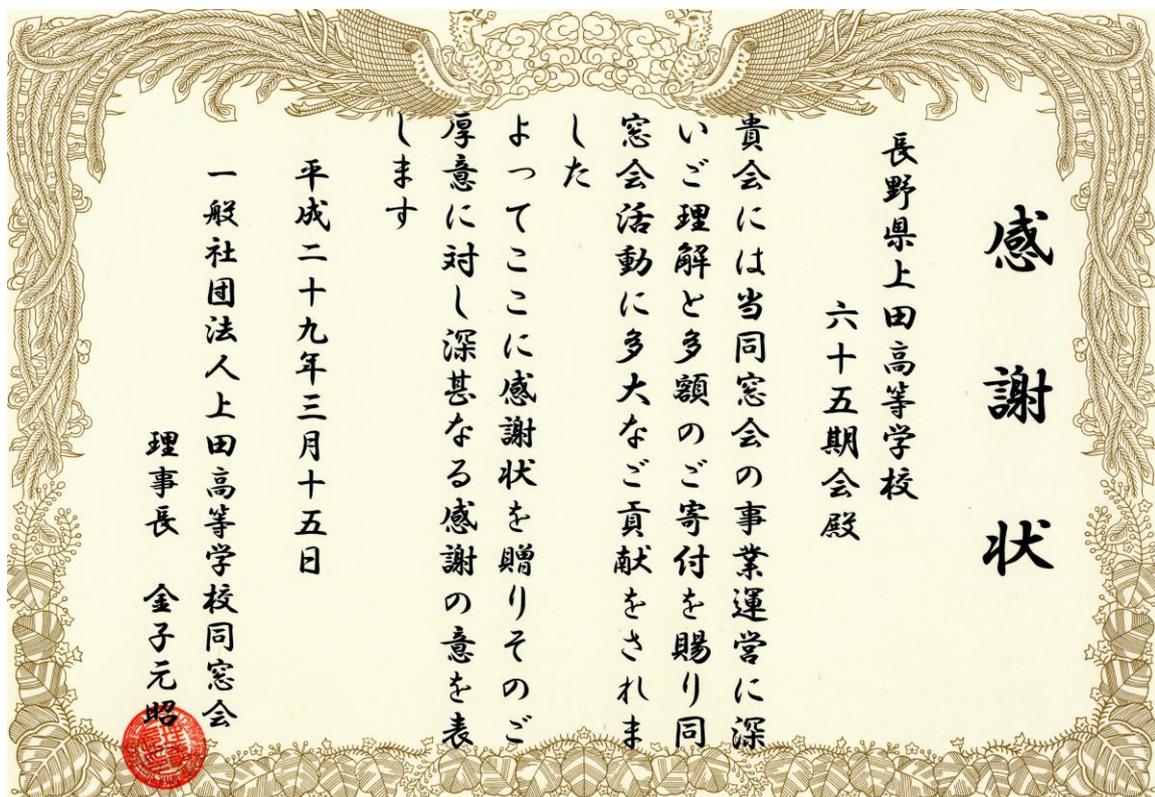
190 名の同期にご寄付いただいた中から母校へは 110 万円、日頃お世話になっている同窓会本部に 10 万円の贈呈を行うことにしました。3 月 15 日 (水) に募金実行委員長の布施修一郎と同委員の小山田秀士 (7 組) が母校を訪れ、内堀繁利学校長 (74 期) に、その後同窓会事務所では甲田英俊副理事長 (72 期) に手渡ししてまいりました。現金で差し上げたことに双方とも大変喜ばれ感謝されました。オブジェなどの記念品では管理などが必要になり、有難迷惑な面があるとのことで、65 期としては喜ばれる贈呈形式になったことに嬉しさを覚えました。

学校に対しては長野県で 2 校だけ指定されている SGH (Super Global High school) 活動に充当して戴きたい旨をお伝えしてきました。

寄付していただいた皆さまには、改めて感謝申し上げる次第です。

なお、東信ジャーナル、信州民報の地元紙 2 社が取材にみえましたので、その記事コピー (3-4 ページ) も添付します。(3 月 17 日 記)

【同窓会本部からの感謝状】





甲田英俊副理事長に寄付金を手渡す布施君と小山田君



内堀繁利校長に寄付金を手渡す布施君と小山田君



内堀校長（左）に寄付金を手渡す
布施さん（中央）と小山田さん

卒業50周年記念

上田高校に第 65期生が寄付

現金110万円

上田高校の第65期生は15日、卒業50周年を記念して同校に現金110万円を寄付した。

代表幹事の布施修一郎さん（68）と上田市中央3と募金委員の

小山田秀土さん

（68）と同市東内が同校を訪れ、「同校が指定されている）スーパ

ーグローバルハイスクール（SGH）の取り組みに力を入れてほしい」と要望して内堀繁利校長に手渡した。

内堀校長は「SGHの活動で視野が広がり、なぜ学ぶのか、社会に

還元するためにはどうすべきかを考え先を見通せる生徒が増えた。有効に使わせていただきます」と感謝した。

第65期の募金委員会は昨年夏から今年1月まで同期生に募金を呼びかけて約180人が協力した。昨年秋季には市内で同期会を開き約

130人が参加。ゴルフやテニスなどの同好会で交流を温めている仲間もいるという。

布施さんは「SGHの活動などに積極的に動いてほしい」。小山田さんは「世のために何ができるかを考えながら学んでほしい」と後輩たちに期待を寄せた。

2017年（平成29年）3月17日（金曜日）

上田高校65期卒業生が学習支援金贈る

「SGH活動に役立ててほしい」110万円

上田市

上田市の大手の上田高校を昭和42年3月に卒業した、第65期生（11クラス・550人）は15日、卒業50周年を記念して同校生徒の学習支援金110万円を贈呈した。同支援金は65期生が募金委員会（布施修一郎委員長）を組織し、昨年夏ごろから募金を開始して今年1月末までに集まったもの。

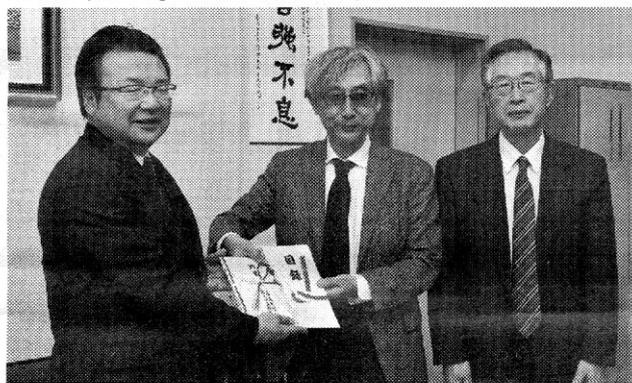
この日は布施修一郎さん（6組）と小山田秀士さん（7組）の2人が来校し、「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）としての活動に力を入れてほしい」と話し、同校・内堀繁利校長に目録と支援金を手渡した。上田高校は県内で2校目のSGHに指定され、同校は国際的に活躍できるグローバル・リーダー育成の活動を推進。小山田さんはこの活動について触れ、「SGHのシステム活用を進め、生徒らには自分たちの役割をき

ちんと見据えて世のため人のため、何ができるのか考えながら勉強してほしい」と語った。

内堀校長は「SGH指定校として、生徒らは視野・選択が広がり、先が見通せるようになった」とし、「支援金はSGHの活動中心に、生徒に還元できる部分に活用させてもらう」と話した。

スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）は、文科省が急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、高校段階から国際競争力を身に付けた人材を育成するため

に、26年度から進める事業。語学力、幅広い教養、問題解決力などの国際的素養を身に付けたグローバル・リーダーを育成する高校などをSGHに指定した。5年間にわたり支援し、県内では長野高校に次いで上田高校が指定されている。



内堀校長に目録と支援金を手渡す（写真右から）小山田さんと布施さん